



① 洗浄方法にもこだわり、栄養価を残す。 ② 厚みを確認するために手作業でスライス。 ③ 野菜の種類により、温度と時間を変えて乾燥。



株式会社 ファインベジ プロジェクト

<http://www.finevege-project.co.jp/mission/>

大学の研究成果を社会貢献に
役立てるため起業を決意。
農家の課題に向き合いながら
豊かな暮らしの実現を目指し、規格外の
有機野菜を活用したペットフードへ挑戦。

「当社の使命は、研究成果を効率的に社会に循環させること」

「頭に浮かんだのは、ペット業界です。最近では、家族同然の存在として、室内犬を飼う人が増えています。こうした人たちは、愛犬の健康状態に気を配り、食べ物にも配慮します。この層をターゲットにして、有機野菜を利用したペットフードをつくれなにかと考えました。山口大学の獣医学部の協力も得て、市場に出せない有機野菜を使った研究を開始。その結果、アレルギー反応もなく、栄養価も残した、乾燥野菜チップスの開発に成功しました」

この野菜チップスをアグリライアント研究所で販売することも考えたが、商品の性質があまりにも違うため、新たな会社を立ち上げたほうがよいという園山さんの判断から、ファインベジプロ

され、大きな実績となりました」

STEP 2 事業スタート

資本性ローンを活用することでさらなる研究、開発を促進

次に、園山さんが着目したのは有機野菜だった。有機野菜は農法や製法に厳格な基準が設けられ、そのため農家にとっては管理が難しい。栽培農家は、規格外の野菜の利用法に頭を痛めていた。ファインベジプロジェクトは、大学の研究技術によって、この課題の克服に取り組んでいる。



会社概要
所在地：山口県山口市吉田 1677-1
山口大学農学部気付
業種：製造業
資本金：100万円
設立：2014年10月
従業員数：5名

STEP 1 創業のきっかけ

農学部の研究の実用化に成功し、新たな課題にチャレンジ

大学では日々、さまざまな研究が行われている。その成果が世間から賞賛されることもあるが、一方で、莫大な予算を投じているわりには、社会で活用されている技術はわずかだという厳しい指摘もある。

園山芳充さんが立ち上げた株式会社ファインベジプロジェクトの目的は、大学の研究を社会貢献に結びつけることである。実は園山さんは、以前、全く同じ目的で会社を起業し、成功を収めた経験を持つ経営者だ。

「私は元々民間企業の営業マンでした。大学の研究、あるいは実験で使用する実験備品を売る会社に勤めていて、その関係で山口大学に頻繁に出入りしていたんです。ある日、農学部の山本晴彦教授との雑談の中で、ベンチャー企業をつくりたいが、営業のできる人材がいけないという話題になりました。話をよくよく聞くと、理系出身の私にとって、非常に興味深い研究でした。それなら、私が営業をやりましょうというところで、会社を退職し、研究員として山口大学に所属しながら、会社をつくったんです」

その後、2011年、園山さんは株式会社アグリライアント研究所を立ち上げ、銀行と日本政策金融公庫の利用を考え、その際に公庫の資本性ローンという融資制度を知りました。資本性ローンは無担保・無保証人の融資制度で、なおかつ金融検査上自己資本とみなすことができることが特徴です。当社にとってメリットがあり、運転資金も必要なので、公庫からは資本性ローンを利用することにしました」

STEP 3 今後の展望

プレミアム感に重点を置いて市場のニーズに応えたい

ほとんど拍子に創業までこぎつけたが、もちろん課題もある。有機野菜の流通量は、全野菜のわずか0.2%ほど。つまりは大量生産ができないので、ペットフードとしての価格設定もどうしても割高にならざるを得ない。そこでターゲット層にリーチするために、いかにプレミアム感を出すか、戦略を練る必要があった。

「今は販売が見込める動物病院に置いてもらうことから始めています。需要を掘り起こしている段階なので、商品の認知度はまだ十分とは言えません。しかし、農学的な研究・技術を使ったペットフードという特質をアピールし

る。植物に対して光の関係は、良いほうにも不都合なほうにも作用する。例えば、植物工場で利用される光は農作物に当たると、特定の栄養素を残しながら、成熟速度を上げる効果が期待できる。その一方で一般の光では、植物の成長に悪影響を与えるケースもある。交差点やコンビニエンスストアの照明や漏れ光が夜間、畑に当たると、稲など農作物の生育が遅れ、品質が落ちるといったことが研究機関によって報告されている。

この光害を防ぐには夜間照明を消灯などの対応で機能させないことだが、それにより、子どもたちの通学路に夜道に明かりがないという弊害が起こってしまった。これが隠れた社会問題になっていく。

山本教授の研究とは、農作物の生育に悪影響を及ぼさないLED照明の開発だった。そしてこの技術を社会に広める役割を担ったのが、園山さんが起業したアグリライアント研究所である。「文部科学省の所管の科学技術振興機構という機関には、大学において起業を目的とし、実用化できる技術を研究開発するための支援をする『ベンチャー創出支援』というプロジェクトがあり、株式会社アグリライアント研究所は、その成果により生まれた企業です。光害を阻止するLED照明の開発、実用化は成功し、今では国内で広く利用

ていけば、きっと人とペットの豊かな暮らしに貢献できると思っています」

産学連携だからこそもたらされる驚きの発見。その活用にもますます期待が高まっている。



山口大学では、地域に根ざした研究をもとに起業するケースが多い。

Point of note

■ 大学発ベンチャー

2001年、政府が大学発ベンチャーへの創業支援を打ち出して以来、すでに2000社以上の企業が誕生している。研究成果を実用化させるまでに時間はかかるが、学術機関で生み出される革新的な技術と新規性の高い製品・サービスは、経済の活性化への貢献が期待されている。

Profile

株式会社
ファインベジ
プロジェクト
代表取締役
園山芳充さん

山口県出身。民間企業を退職後、研究員として山口大学に所属。同大学農学部の研究成果の実用化に取り組むことを目的とした、大学発ベンチャーを2社設立した。